

## 第2回愛知県海岸保全基本計画検討委員会 議事要旨

日 時：令和6年2月16日（金）

10時00分～12時00分

場 所：KKRホテル名古屋（WEB併用）

### 1. 次第

1. 開会
2. 愛知県海岸保全基本計画検討委員会  
（議題）
  - ・計画検討の枠組み
  - ・技術部会の検討状況の報告
  - ・渥美半島表浜海岸保全対策検討会の検討状況の報告
  - ・海岸保全基本計画の変更に向けた現状・課題の再整理
3. 閉会

### 2. 配布資料

- ・第2回愛知県海岸保全基本計画検討委員会 資料
- ・第2回愛知県海岸保全基本計画検討委員会 参考資料

### 3. 質疑応答

#### ■【第1章～第3章】

##### 【委員】

砂浜幅20mの確保ということで、確保していないところでモニタリングを実施していくとしているが、モニタリングの期間はどのくらいを検討しているのか。

##### 【事務局】

期間は2年に1回実施している。当面は続けるという考え方である。

##### 【委員】

基本計画の実施で、離岸堤、潜堤の設置・移設で砂幅が変化していることを目で確認している。この変化は10年くらいかけて変化している。モニタリングの期間は、相当長い期間が必要と思う。これまで割と早めの判断で消波ブロックが積まれていく。砂浜が減っている所に消波ブロックが積まれ景観が悪くなっているので、心配している。

##### 【事務局】

現時点では消波ブロックを積むということはない。モニタリングの中で、浜幅が減少し、内陸まで影響が及ぶ可能性があれば設置する可能性はある。

##### 【委員】

消波ブロックを積み上げるのは十分に検討した上で、住民との相談、このような委員会を通していくことをお願いしたい。

##### 【委員】

モニタリングは、上手くいっていないところをいち早く把握することも重要であるため、そうした方向で進めてもらいたい。

##### 【委員】

海面の上昇量で39cmが予測されている。最近、伊勢湾・三河湾で予想潮位よりも大分上振

れすることが多い。黒潮の流れが温暖化で蛇行がひどくなって、三重県側を北上している。そのあたりは考慮されているのか。

**【事務局】**

現時点の検討の中では、そこまでは考慮していない。実際のところ、黒潮の大蛇行の影響がどのくらいなのかを定量的に予測することが難しい。将来的にその蛇行がどうなるのかの予測も非常に難しいと思っている。

**【委員】**

現時点では難しいと思うので、モニタリングをしっかりとやって、施策を進めてほしい。

**【事務局】**

潮位はモニタリングしている。気候変動の影響なのか大蛇行の影響なのかも含めて、モニタリングを進めていく。

**【委員】**

豊橋市で生態系ネットワークづくり委員会が開催されている。黒潮の大蛇行によってウミガメの上陸数が非常に減っている。カメが動くのと同じように砂も動いている。動き方がだいぶ変わっていることを予想しないといけない気がするので、その辺もモニタリングの中に入れて頂きたい。

**【事務局】**

モニタリングは続けていく。

**【委員】**

波の計測は実施されているが、沿岸流の観測は難しい。

**【委員】**

能登半島地震があつて、堤防も津波によって相当影響を受けた。今回、津波外力についても改めてシミュレーションされる。この地域で発生する津波について検討するということか。

**【事務局】**

津波については、現時点では南海トラフで起こる地震を想定して、それで発生するレベル 1 津波が堤防を越えない対策を実施中である。改めてのシミュレーションは、初期潮位が変わることによって津波の高さがどう変化するかというのを新たにシミュレーションするという意味である。

**【委員】**

39cm を上がったということを踏まえて、検討をすることか。観光施設にも相当影響するので引き続き検討をお願いしたい。

**【委員】**

L1 津波の考え方は変わらない。水位上昇分による影響を把握するものである。

## ■【第4章】

**【委員】**

P36 の港湾 BCP について、全国的に先進的な取組であり、継続的に実施し、回していかないといけない。

**【事務局】**

毎年、協議会、ワークショップ、訓練などを継続して実施しており、実効性を高めるように努めている。

**【委員】**

変更原案の作成にあたって、現行計画は平成 27 年に変更されたものであり、コロナ禍もあって、現在では社会の情勢やニーズは大きく変わっている。今回の見直しで、現行計画の内容でも、削ったほうがよい項目も出てくる可能性がある。

**【事務局】**

削るものがあるかはしっかりと確認していきながら、検討を進めていきたい。

**【委員】**

遠州灘の廃棄物処理について、2022 年の台風 15 号で発生したような流木処理が遠州灘で起こるとは思っていなかった。台風 15 号のような流木処理の問題は、今後も発生する可能性があり、考えておく必要があることが明確となった。

**【事務局】**

今回の事例も踏まえまして、発生時の対応体制などを整えるなど、検討をしていきたいと考えている。

**【委員】**

市内のほぼ全域が海拔ゼロメートル地帯の軟弱地盤なので、大地震の際には広い範囲の液状化被害なども心配される。県の海岸堤防の樋門の自動閉鎖化等ができていないため、有事の際は職員が閉鎖のために現地へ向かう仕組みとなっている。液状化被害を受けた道路を走行して、水門を閉鎖しに向かうことは非常に困難であり、海岸に向かっていくことは非常に危険な行動であるので、水門の閉鎖可能時間を考慮していただきたい。

**【事務局】**

次のアクションプランの検討も始まっているので、次のステップについて検討をしていく。

**【委員】**

渥美半島は南海トラフ地震が非常に危惧されている。

海拔ゼロメートル地帯の小中山地区で、海岸護岸にクラックが入っており、老朽化がうかがえる。調査の結果大丈夫と言われているが、地元としては非常に心配している。海岸保全が有効的なものになるように検討を進めてほしい。

P24 の太平洋側の海岸侵食について、砂浜がなく、地域住民も大変危惧している。砂浜の保全、養浜対策をしっかりとお願いをしたい。

東部については表浜の海岸侵食、西部については緑の防潮堤があり、県が 900m 整備しているが、非常に時間がかかる。その間に津波がきたらなんともならない。非常に地域の皆様が心配しているため、早く整備の方をしていただきたい。

**【事務局】**

いずれも取り組みを進めている、今後も地元市町村などと連携して取り組みを進めていく。

**【委員】**

地震の関係で、能登では漁港が壊滅状態になっている。愛知県は沿岸域に埋立があり、液状化も非常にひどくなるのではと思っている。沿岸を変な物で埋めないようにお願いしたい。

**【事務局】**

P44 で地震対策として拠点漁港において耐震整備を進めている。埋立については、一定の基準を満たしたもので埋立っている。引き続き適切に埋立っていく。

**【委員】**

P41 に湾内の水質について、T・P の関係で、キーワードに流入負荷軽減の取組が記載されて

いる。水産の方から言うと、低減されすぎて生物再生産が非常に危うい状況にある。プランクトンは栄養塩がないと育たない。生物の餌環境が非常に悪くなっている。食物連鎖が崩壊した状態になっている。

アサリも2、3年前まで、栄養塩が低下する冬場になると餌不足で餓死し全滅していたが、矢作川浄化センターなどで窒素・リンを基準値上限まで増加放流する管理運転を実施してもらい、やっと生き残る状態になった。赤潮、青潮も以前に比べるとかなり規模も小さくなっている。表現の仕方を変えてほしい。

**【事務局】**

社会実験として、冬場に限って、矢作川と豊川の浄化センターの窒素、リンを上限の2倍にして、その放流を努めている。現状認識として正確な記載をするように努めていく。

**【委員】**

アサリについては栄養塩だけの問題でない。特にこの地域にアサリが多い要因は鉄分がかなり多く川から流入して、それによりプランクトンが増加している。現実的には、河川の上流部の湧水湿地と呼ばれているところが減少している。そうした所からの鉄分の流入が少なくなっていることでプランクトンが減っていることが原因と思われる。単純に栄養塩を増やしてもアサリの増加につながるかは疑問視される場所である。

**【委員】**

ミネラル分も重要である。河川の一番代表的な部分としてTPが20年前と比べると半減している。鉄分の補給になるようなものも検討していければと思っている。

**【事務局】**

環境局と農業水産局で合わせて会議を持っているので、現状認識、今後の対応等については、そういった場にも伝えておきたいと思う。

**【委員】**

川からの砂の供給が減っている。国でも総合土砂等が取り組んでいる。ミネラル等についても流域全体で考えていく視点が必要と思われるので、環境面ではそうした視点も入れてもらいたい。

**【委員】**

P36の災害への備えについて、実際に想定以上のことが起こりうる。キーワードで「沿岸域への人口の集中」、「埋立地の都市化」とあるが、津波の映像が刷り込まれていて、海側へ行くには相当安心・安全な状況が担保されないと難しいのではと思う。

開発に対しての規制をかけていく可能性もあるかもしれないので、そのまま読むと違和感がある。

**【事務局】**

土地利用規制について、高潮、津波について横の連携を取りながら考えていきたい。

**【委員】**

P43について、特に沿岸部の住民に加えて、背後圏の都市部の住民の理解を得るということは、予算を取っていく上でも非常に重要である。

避難経路、インフラ整備について情報発信する際に、スマホ等のオンラインでの情報発信を強化して頂ければと思う。実際に被災した場合、端末での情報収集が多く、不安の解消につながっていくと思う。愛知県は外国人の方がかなり在住しているので、そうした情報発信について可能であれば、多言語表記で整備していただくことも必要になる。

健康寿命の長寿化に関してウォーカブルな街づくりを国交省も進めている。自然が豊かな地域でウォーキングコースも設置されている。車で行って、いろんなパターンで歩けるコース整

備ができると、都市部の理解も深まるのではないか。

**【事務局】**

情報発信については、ほとんどできていない。情報発信のツールも非常に進んでいるので、考えていきたい。

**【委員】**

地震が起きると想定外のことがいっぱい起きる。地すべりが原因で津波がきた。いろいろと防護しても、第1波に耐えることができても2波にはインフラが壊れて役に立っていないことがあるように思う。のとじま水族館では配管が割れて浸水した。すべてに対して予測して動くことは絶対無理なので、逃げることを第一に考えなければならない。

のとじま水族館では、避難はしたが、島の橋が通行止めとなった。高台の駐車場で、車の中で一晩すごした。名古屋港水族館は駐車場も防潮堤の外で、避難の際、周りで液状化が起きると車がつかえない。すべてを行政でやってもらうことは無理があり、地域やそれぞれの施設でいろいろなことを想定しながら備える必要がある。

自分の身は自分で守るというような広報をしっかりとの方がよい。

**【事務局】**

避難の情報の提供については、浸水想定を公開しているが積極的にはPRするところまで及んでいない。ソフト対策を確実にしていく取組を強化していく。

**【委員】**

参考資料にCOP15の30by30が記載されている。達成するために、自分の所管の敷地内の自然を、自然共生サイトとして登録するという取組がある。

J-GBF(2030生物多様性枠組実現日本会議)という枠組みがあり、国土交通省も入っているので、自然を守るための取組を確実に進めるため、枠組みを利用することも必要と思う。

**【事務局】**

生物多様性に対する取組については、近年の社会情勢の変化で取り上げた。生態系全体についての取組が出来ていなかった面がある。環境部局と連携しながら取り組んでいきたい。

**【委員】**

自然共生サイトは愛知県環境局でやっている。今、関与しているものは、ほとんど陸域で海岸線は手つかずの状態にある。この委員会を通して環境局と協力して、30by30に海岸部のところを確保できると思われるので加えて頂きたい。

**【委員】**

P50、55の粘り強い構造の堤防において、具体的に何を植樹するのか決まっているのか。

**【事務局】**

そこまでは検討は詰まっていない状況である。

**【委員】**

将来かなりキーポイントとなってくる可能性がある。人工物は壊れていくが、それに対して植樹したものは強化していく。組み合わせることによって人工物だけでなく、防波堤として機能をかなり果たせる可能性がある。将来、人工物をかなりフォローする可能性がある。早急に検討していただきたい。自然物は植えてから何十年もかかるので、何十年先を見て樹種の選定を検討してもらいたい。

**【事務局】**

遠州灘は保安林が海岸沿いにある。慎重に検討していきたい。

**【委員】**

東日本大震災の状況を見ると保安林では多分駄目である。保安林になっているところは、壊滅的な被害を受けている。そうではない、保安林プラスアルファとなるような植樹をした方がよい。

**【委員】**

保安林は勝手に増えた木であり、保安林として機能するのか疑問であるが、植林したのものよりはよいのでは思う。

**【委員】**

P40 について、今年度、景観計画を制定する予定である。町民も観光客も海岸を大事する意見が多い。海岸景観に配慮した海岸保全施設の整備を進めているという中に、「積極的に進めていく」という文言を入れてほしい。

また、この計画を実行するための問題提起である。海岸管理者として市町村が管理する海岸として西尾市が 16km、南知多町が 14km もある。かなり厳しい財政状況にあり、実際計画を実行していくにあたって「景観、海岸管理者である市町村の財政状況等、総合的な判断の中で進めていく」という記載を設けて配慮する表現があるとありがたい。

**【事務局】**

地元の意向を踏まえ、景観への配慮が必要な部分については今後も引き続き取り組んでいく。市町管理の海岸における計画実行の部分については、文章を作っていく中で考えていく。

**【委員】**

今回の能登地震により輪島市では隆起により漁港が使用できなくなっている。活断層が国土地理院から示された。将来、新たに検討する予定があるのか。活断層からの海岸保全の知見を考えていかなければならない。

**【事務局】**

活断層については、現時点ではそこまで考えが及んでいない。活断層の評価、被害の評価も時間がかかるため、国の検討状況を注視しながら考えていきたい。

**【委員】**

自然共生サイトについて海側がないというところで、小島海岸はエコ・コースト事業で自然再生したもので登録していいところと思う。

今の海岸の現状を見てもらいたい。どういうところがよいところで、どういうところが悪いのか、一回よく見てほしい。

**【委員】**

豊橋市や田原市はきれいで景観がよく、サーフィンの大きな大会もあるので、景観と共に砂浜の浸食対策を引き続き配慮して行ってほしい。

以下は、検討委員会後の書面による意見

**【委員】**

今後、気候変動による降水量の増大に伴い、同様の流木災害の頻発化・激甚化が想定されま  
す。海岸保全施設の防護機能確保、アカウミガメ上陸産卵の環境保全および海岸の良好な利用  
環境を保つため、漂着流木対策についても考慮いただきますようお願いする。

今後、朔望平均満潮位の変更など気候変動を踏まえた将来外力の増大に伴い、高潮被害の頻  
発化・激甚化も想定されます。ハード対策として背後地の重要度を踏まえたメリハリのある施  
設整備をお願いするとともに、ソフト対策として「高潮浸水想定区域」および「津波災害警戒

区域」について将来外力を踏まえた区域の変更を適切な時期に願います。

**【委員】**

西尾市においても管理する漁港海岸の耐震化整備を進めているが、本市が管理する 6 漁港のうち耐震化に着手しているのは 1 つ目の漁港のみであり、その漁港でも約 35%しか進捗できておらず、管理するすべての漁港海岸の耐震化整備が完了するには数十年かかる現状である。

そのような中で、今後、気候変動の影響を考慮した新たな計画を進める場合において、整備にかかる期間と施設の耐用年数などを考慮し、過大とならないようにどれだけの気候変動を見込んで計画するのか、今後の検討課題であると認識している。

以上